

おもちゃ図書館がつなぐ  
心とこころ

# おもちゃの 図書館

育成ハンドブックNo.70

2010年2月発行

ネットワークをいかして





## この育成ハンドブックをお読みの皆さまへ

「ボランティアってなあ～に？」こんな質問に、みなさんはどうお答えしますか？いろいろな、お考えがあると思いますが、なかなかぴったりの返事はできないものですね。おもちゃ図書館のボランティアは、参加する人みんながボランティアです。赤ちゃんの笑顔は、その場のみんなの笑顔につながるボランティア。障害のある方が、ありがとうと言って下さることが、みんなの気持ちを豊かにするボランティア。ボランティアする人される人、行ったり来たり、みんなボランティア。今回は、ボランティアについて、また活動の広がりにつながりについて掲載いたしました。みんな、一人ではないということ。小さな活動も、つながり合えば、地域の中を住みやすくしていくことができます。このハンドブックを参考にして頂けると幸いです。

### 目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| この育成ハンドブックをお読みの皆さまへ          | 2  |
| おもちゃの図書館におけるボランティアリズム        |    |
| ボランティア研究所主宰 木谷宜弘             | 3  |
| ネットワークづくりは、発信することから          |    |
| おもちゃの図書館全国連絡会 事務局長 鈴木訪子      | 7  |
| たくさんのつながりの中から                |    |
| 千葉県 柏おもちゃ図書館かたつむり 鈴木多恵子      | 12 |
| 人のつながりを活かす                   |    |
| 東京都 すみだおもちゃ図書館 新井尚恵          | 13 |
| トイ・ドクター リレートーク               |    |
| 松戸ボランティアの会・おもちゃの図書館附属病院 吉田徳三 | 14 |
| 本の紹介                         | 15 |



# おもちゃの図書館における ボランティアリズム

ボランティア研究所主宰 木谷宜弘

国際障害者年の前年の昭和55年、都道府県ボランティアセンター所長が軽井沢にある明治学院大学宿泊施設に集合した。全国ボランティア活動振興センター所長の私は、国際障害者年を迎えるに当たって、全国のボランティアセンターが共通して取り組む運動として『おもちゃの図書館づくり』を提唱した。夜を徹して論議した結果、全員の賛同を得ることができた。その時にはスウェーデンを原点とする活動で、医療機関とその関係者が推進しているトイライブラリーが日本でも先行実施されていた。スウェーデンより早く1935年、世界恐慌の大不況時代に、アメリカで始まったおもちゃ図書館がある。おもちゃを買ってもらえない子どもたちが騒ぎ出したのがきっかけで、お母さんたちとボランティアが始めたおもちゃ図書館であるが、どちらのモデルを選択するか激論となったが、運営には障害児のお母さんたちを主体とするボランティア運動として全国展開をすることに決着した。

こうしてボランティア運動として展開された『おもちゃの図書館』も30年近くの歳月を経て、現在全国で450館余の仲間を数えることになった。これだけの仲間を得たのは、やはりボランティア運動として始めた決断が間違っていなかったと回想する。

アメリカのお母さんたちが「おもちゃが欲しい」と泣き叫ぶ幼子を見過ごすことができず、仲間の知恵と力を結集して始めた「おもちゃ図書館」、そこには我欲を超えた「優しさ」があった。「優」という字を分解すると「人を憂える心」となる。ボランティアは人を憂えることのできる人たちのことである。だから同憂の人たちが集まり、我が子だけではなく社会の子として手をさしのべる力が結実したのである。



## 相互実現の世界を旅する人

『ボランティアとはどういう人のことですか』とよく尋ねられることがある。その都度、私はこう答えることにしている。『ボランティアとは相互実現の世界を旅する人のことです』と。

NHKの第二ラジオで、そのことを話したことがある。その放送を聞いた経団連社会貢献委員会委員長から連絡があった。仲間から「ボランティアの目的は何か」とよく問われる。その都度「自己実現です」と答えると「自己実現は誰でも皆それを願って人生を送っている。ボランティア独自のものではない」と言われて返答に困っている時、その放送を聞いて目から鱗がとれた気がする。「これから『相互実現』を使ってよいですか」という。「どうぞ、どうぞ。大いに使ってください。私が62年間、ボランティアをやっていますが、それは私自身の体験から実感したことですから」

昭和22年、中学3年生の私は対話能力の弱さから、対人恐怖症に陥っていた。そのどん底から、わたくしを救いあげてくれたのは小学生の子どもたちであった。終戦間もない頃、戦災の焼け跡にはバラック住宅が並んでいた。子どもたちはテレビもなく、遊具もなく、おなかを空かして戸口にボンヤリ立っていた。私は「お話ししてあげようか」と呼びかけた。焼土の小山に20人ほどの子どもたちが腰をかけた。私はたった一つ記憶している童話を語った。

しどろもどろの下手くそな話しぶりでも、子どもたちは目を輝かして聞いてくれた。「これでおしまい」話を終えて、後ろ向きになり帰ろうと「お兄ちゃん、明日もね!」と子どもたちの声が一斉に私の背中を押した。

私には子どもたちの声に応える話は皆無であった。しかし、あの子どもたちの目の輝きが、私の足を県立図書館に向かわせた。図書館には徳島県童話研究会が組織されており、15年前から子どもたちを夢の世界へ誘うボランティア活動が続けられているのを知り、私も会員になり、家に帰ると毎日、童話を話すことになった。子どもたちとは童話が仲立ちとなって義兄弟となり、今日なお交流が続いている。気がつくと、私の対人恐怖症はどっかへ飛んでしまっており、生きる力を倍増することになり、自己実現への道を逞しく歩む勇気をくれた。また、それは相手の自己実現を真剣に考えて行ったことが実を結んだのではないか。そして、相互実現の世界には『ヒトが人になる』不思議な力が存在していると確信した。



## わが子も相互実現の世界にいた

わが子を伴っておもちゃの図書館で世話活動をしていたAさんがいた。子どもが小学校を卒業した日、子どもが持ち帰った卒業文集を見て驚いた。

Aさんの息子B君は肢体不自由児で、学友のC君からいじめを受けていた。そのC君の綴った文をみたAさんは目を潤ませた。その卒業文には「僕はB君に謝りたい。そして有り難うとお礼を言いたい。君は僕のいじめにあっても、僕が脚を怪我して入院していた時、毎日のように見舞いに来てくれたね。そして、退院しても不自由な脚で歩く方法を親切に教えてくれたね。有り難う。意地悪した僕に対してこんなに親切にしてくれて、僕は恥ずかしい。僕も君の生き方を見習って行動します」とあった。

Aさんは『よくやったね。』と息子を抱きしめたくなると同時に、おもちゃの図書館の存在が大きかったことに感動したと話してくれました。私は「それはB君がおもちゃの図書館で、お母さんの後ろ姿をみて育ったからですよ」と申し上げました。

ボランティアの語源は、ラテン語の「ボランタス」からきている。その意味は「意志、希望、決意、善意、熱意」などがこめられている。

この「ボランティア」という語は歴史的に、いろんな使われ方がされ、例えばフランス革命では「自由、平等、博愛」の旗印をかかげて闘争した「義勇軍」「志願兵」のことを指した。

産業革命ではイギリスに端を発した「セツルメント運動」が世界各国に広がった。産業の起点の都市部に農村地帯から出稼ぎにきた人たちが工場地帯の周辺にバラック住宅を建て、住み着いた。こうして貧困で非衛生的なスラムが発生し、それを見かねた人たちが支援の手を差しのべた。これが賀川豊彦などが率先したセツルメント運動で、今日のボランティア活動の始まりだといわれている。

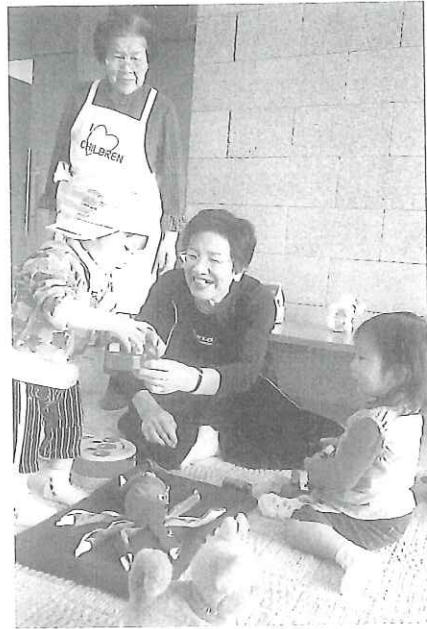
1962年、ボランティア活動を全国に普及するシステムとして、きっかけと





なったのは徳島県で発祥した『善意銀行』でした。この善意銀行は全国社会福祉協議会の組織を通じ全国に普及し、1977年にはボランティアセンターと改称、今日のごとく市町村、都道府県、全国のネットワークが完成しました。

おもちゃの図書館はこのネットワークの波に乗って、1981年の国際障害者年に普及されたわけである。現状で良しとせず、これからも一小学校区域に最低一おもちゃの図書館を実現したいものである。



木谷 宜弘 氏

ボランティア研究所 主宰

初代 全国社会福祉協議会 全国ボランティア活動振興センター所長

TIC運動推進委員会委員長

上勝町「山の楽校」顧問





# ネットワークづくりは、発信することから

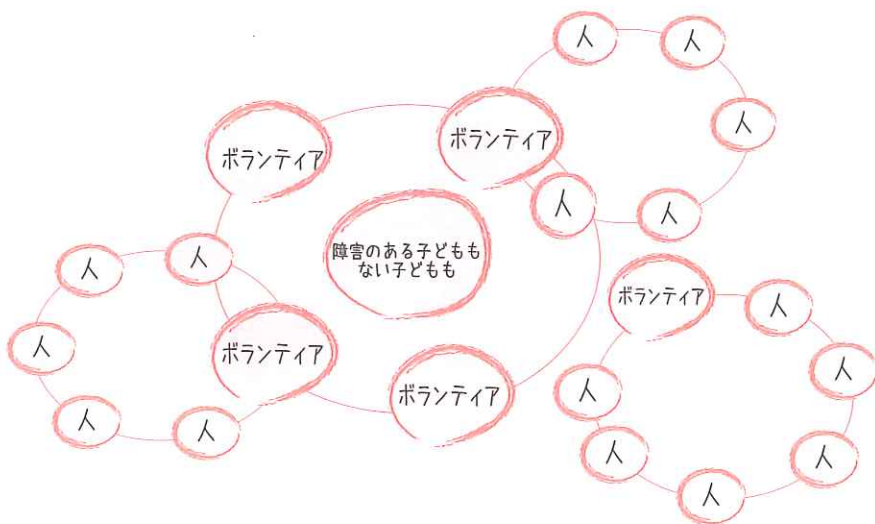
おもちゃの図書館全国連絡会 事務局長 鈴木訪子

## ネットワークでつくられているおもちゃ図書館

おもちゃ図書館は、「こども達におもちゃで楽しく遊ぶ場を」「障害のあるこどももないこどもも共に遊び、心のバリアフリーを」「お母さん達のほっと一息つくことができる場を」「楽しいボランティア活動をしたい」などの願いを持った人々が集まり活動が取り組まれています。

担い手の一人ひとりの立場もキャリアもみんな違いますが、「こども・おもちゃ・遊び・バリアフリー・ボランティア」などのキーワードを共有しながら活動を進めています。また、遊びに来るこども達や兄弟姉妹、保護者も含めて、ひとつのおもちゃ図書館がすでにネットワークで成り立っています。

このネットワークは、障害のあるこどもをもつ親達が集まって作られたおもちゃ図書館であったり、地域のボランティアが集まって作られているおもちゃ図書館であったり





と構成するメンバーにより、「つながり」方の強弱も、広さも、深さも異なりますが、活動を支える基本的な力となります。

このおもちゃ図書館の基本のネットワークの中に、様々な立場や経験の持ち主、性別、世代の違う人々が参加することにより、その一人ひとりがもつネットワークも加わり活動の幅を広げたり質を高める力となります。

おもちゃ図書館では、子ども達に豊かな遊びの場を提供するだけではなく、子ども達の成長とともに、多様なニーズにあわせて新たな活動をつくりだしたり、夢を実現する場ともなってきたことは、このネットワークする力があったからこそだと言えます。

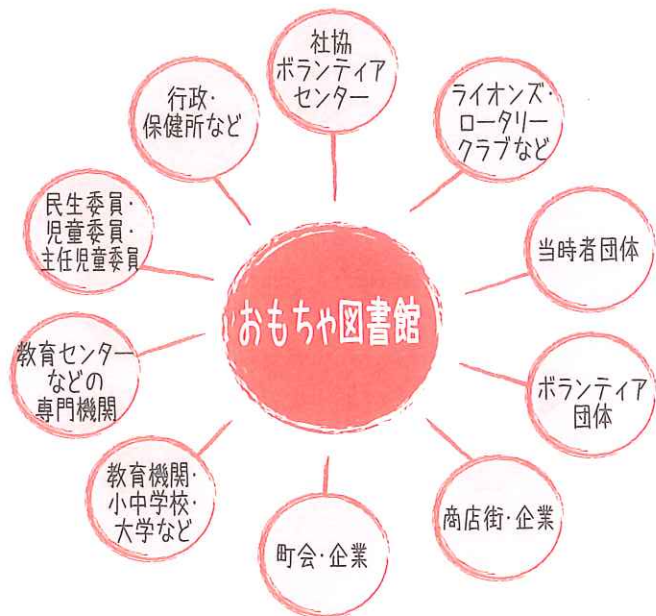
## 地域のネットワークに参加していますか？

地域の中で「おもちゃ図書館」だけで他の団体とのつながりを持たずに活動をしているというところは、実は少ないのではないかと思います。地域には、同じような目的やミッションをもったボランティア団体や当事者団体などがありますし、またそれらの活動の支援をしてくれる団体もあります。

「一緒に活動をしてくれるボランティアを増やしたい」「新しいおもちゃがほしい」「安定した活動場所がほしい」「より多くの子ども達に参加してほしい」「おもちゃ図書館の活動を広報したい」「子ども達のためのイベントを取り組みたい」など、一つのおもちゃ図書館だけでは解決ができない時にこそ、力になってくれるのが地域ネットワークです。

まずは、自分達の地域にある社会資源について知ること、見つけること、そして積極的に声をかけることが大事です。

例えば、社会福祉協議会、







ボランティア市民活動センター、療育センター、学校、保健所・行政、自治会町会、民生委員児童委員、商店街、企業、ライオンズクラブやロータリークラブ、ボランティアグループや障害のある子どもをもつ親達などの当事者団体など、地域にはたくさんの社会資源があります。

アンテナを高くはって、活動への理解や協力を得られる相手を見つけることが大事です。

その際に自分達の活動の内容、めざすもの、どんな支援を必要としているのかを具体的に伝えることが必要です。しかし、相手の立場を理解することなしに、一方的に自分達の思いだけを伝えても逆効果になることもあります。

また地域には、対象者や活動目的を共通にした「子育て支援」というネットワークもあります。障害のある子もいない子も、地域の中で健やかに育つように、それぞれの担うべき役割を確認し連携をして取り組むことが求められています。

このネットワークの輪の中に参加することにより、おもちゃ図書館のもつ課題やニーズを理解してもらう機会にもなり、地域にあるこどもを取り巻く新たな課題に気づく場にもなり、今後の活動推進につながるものと思います。

## おもちゃの図書館全国連絡会のネットワークを活かしましょう。

おもちゃ図書館活動の特徴の一つであり素晴らしいことは、同じ活動に取り組んでいる全国各地のおもちゃ図書館のネットワークをもっているということだと思います。さらに国際トイライブラリー協会という世界のおもちゃ図書館ともネットワークをもっていること、「広がれボランティアの輪」連絡会議という多様な活動のボランティア団体の





ネットワークの輪にも参加していることです。

私自身も、この大きなネットワークにたくさん支えられています。

例えば、荒川区から障害のある人たちと一緒に沖縄旅行をした時にも、嘉手納のおもちゃ図書館ペンギん村のみなさんにリフト付きの車の手配をはじめ、観光コースの相談などをサポートしてもらい、楽しい旅の思い出をつくることができました。

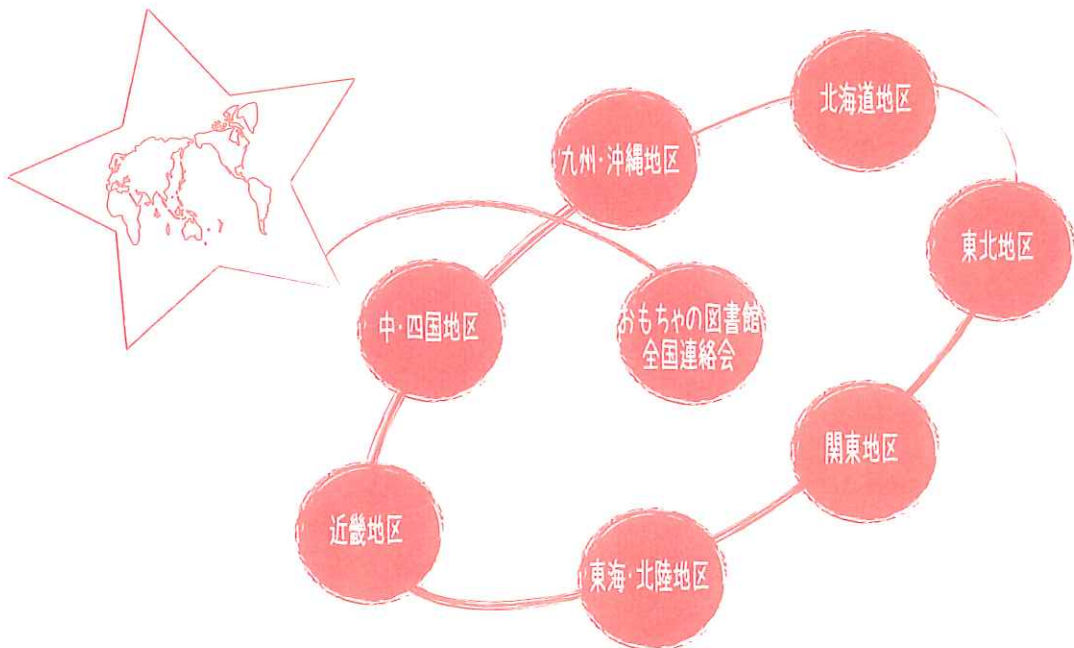
先日も、荒川区で子育て支援のネットワークを一緒に取り組んでいた大学の先生が名古屋市の大学院に勤務することになり、名古屋市内のボランティア団体等とネットワークをつくりたいとの相談を受け、迷わず愛知県の世話人に連絡をとり協力を求めたところ、すぐに対応していただきました。

また、おもちゃ図書館を利用していた親子やボランティアの引っ越しにあたって、全国のネットワークを活かしていただいているという嬉しい声を聞きます。

ところでみなさんは、このネットワークを活かしていますか？

顔も知らない相手に直接相談するのはちょっとと思っている方も多いかもかもしれません。

おもちゃの図書館全国連絡会では、全国7ブロックで7地区の研修会を実施しています。研修会は、活動の質を高めるための学びの場であると共に、各地の活動の情報交換





や交流を通し、おもちゃ図書館同士がつながりあう場です。数時間であるにも関わらずおもちゃ図書館のボランティアというだけで、まるでふるさとは同じような親近感と連帯感をもつことができるから不思議です。そして顔と顔がみえる関係ができることで、研修会後にも気軽に相談をしたり情報交換ができる「つながり」ができるのです。

おもちゃ図書館県連絡会があるところは、さらにきめ細かくネットワークづくりができます。

財団法人子ども未来財団 平成20年度児童関連サービス調査研究等事業報告書「障害児における家族・地域支援システム構築に関する調査研究」～おもちゃ図書館活動の福祉機能を最大限に活かすには～において、埼玉県連絡会と愛知県連絡会の事例が報告されていますが、活動の中で壁にぶつかった時、それを超える支えとなったのは、「身近な県内のおもちゃ図書館の交流を通し、刺激しあい助け合えたこと」と述べています。

すべての都道府県に連絡会ができていないのが残念です。

ところでみなさんは、おもちゃの図書館全国連絡会のウェブページをご覧になりますか？

そこには、全国各地で活動する450館余りのおもちゃ図書館の情報が紹介されています。

インターネットはしないとおっしゃる方は、おもちゃの図書館情報誌「トイ・ポスト」や「育成ハンドブック」を手にはしていますか？紙ベースでも、全国各地の情報が届けられています。

「ネットワークづくり」は、情報を受け取るというだけの受け身のかかわり方だけではなく、自分達から情報を発信する、伝えること、関わることが不可欠です。

どうぞ、いつでも気軽におもちゃの図書館全国連絡会に、あるいは全国各地のおもちゃ図書館にご連絡ください。そこからネットワークづくりの一步が始まります。



## たくさんをつながりの中から

千葉県 柏おもちゃ図書館かたつむり 鈴木多恵子

“かたつむり”は一人の重度の障害のある子どもとの出会いから1985年に誕生しました。障害のある子どものお母さん達と、熱い気持ちの主婦10名の出発でした。

開館準備で、柏市社会福祉協議会に趣意書持参でおもちゃ図書館のことを話しに出かけ「個人の家で大変ですね。協力できることはやります。頑張ってください」との対応、その後も相談にのってくれています。もっと応援があってもいいのではと、仲間には不満もありますが、行政が深く関わることは、規制が増えることと了解してもらいました。

困難にぶつかる度に仲間の絆は強くなり、継続の力になってきたと考えます。

資金集めのガレージセール、運営は親、兄弟姉妹、親類、友人、学校、幼稚園、教師、と輪を広げていき、遊びは、小、中、高校生も参加。近くの学校に出向いて、子ども達とふれあう体験の重要性を話すことで、理解を得ています。

柏には「子ども達のために出来ることを考えよう」との思いで立ち上げた“柏子どもの文化連絡会”があり、情報交換、イベント等で交流。柏市保健所では検診時にパンフレットの配布。児童館では交流の場として開館。特別支援学校、就学前通園施設、麗澤学園祭に年1回開館。

たくさんをつながり、子ども達を中心に25年間で輪が広がってきました。

また千葉県では1985年6団体で発足した連絡会が現在25館の参加になり、年3回の集まりでは、同じ目的を持つ仲間同士、困ったことや、乗り越えた経験を話し合える場となっています。

一人のこどもの周りには、ドーナツのように、その子を守り、育て、支えているたくさんの方がいるように“かたつむり”の周りのドーナツもどんどん大きくなってきています。これからもますます膨らんでいくことでしょう。子ども達が大好きで、お母さん達が「もうひとつの実家」と頼ってくれる心地よい場所をこれからもつづけていけるようにと願っております。

# 人のつながりを活かす

東京都 すみだおもちゃ図書館  
墨田区社会福祉協議会 新井尚恵

こんにちは。すみだおもちゃ図書館（おもちゃサロン）です。このサロンは、現在、ボランティアのまとめ役となっている主任児童委員さんからの「障害のあるお子さんとお母さんが気軽に遊べる機会を作りたい」というご相談がきっかけで、地域の支えあいの場づくりを推進している私たち社協が、お手伝いをさせていただいて運営しています。

サロンを始めるにあたって、社協の広報誌でボランティアや参加者を呼びかけたところ、地域の民生・児童委員さん、そして障害のあるお子さんの保護者といった方がボランティアとして参加してくださるようになりました。

主任児童委員さんや民生委員さんには、ちょっとした制度の相談や親御さんの悩み事にその場で応じていただいています。また、子育て支援センターといった公的機関とのつながりも深く、そういった機関でおもちゃサロンの紹介や説明をしたり、先方から助言をいただいたりしています。

保護者の方には、支援学校や療育センターなどに紹介のチラシをおく役割や口コミでのサロンの周知をお願いしています。また、療育センターの保護者の会の方と知り合い、その勉強会に呼んでもらっておもちゃサロンについて説明する機会もできました。

このように、1人ひとりが持っているつながりを少しずつつなげて、おもちゃサロンの運営に活かしているといえるでしょう。

すみだおもちゃサロンはまだまだ歩き始めたばかりです。これからも地域の皆さんの力を借りながら場所や回数をもっともっと増やしていきたいと思っています。





トイ・ドクターリレートーク

## 「松戸ボランティアの会・ おもちゃの図書館付属病院」

私達は毎年11月3日には松戸市青少年会館主催の文化祭に「子供達の為の  
工作教室」を開いています。

今年の出し物の一つはペーパークラフト。難易度を考えて天道虫、兎、甲  
虫と揃えたのですが、子供の好みはそんなことはお構いなし。大きい子が易  
しい天道虫をあっさり作ってしまったり、小さい子が難しい甲虫を選んで結  
局親御さんが汗をかくことになり、本人は退屈して隣のお兄ちゃんにチョコ  
カイを出したりと、なかなか上手くいかないものです。

もう一つが牛乳パックの立体絵本。長さ1m程の紙の帯3本を2本の牛乳  
パックに捲きつけるのですが、その捲き方に工夫があるのです。うまくやれ  
るか心配でしたが子供達は吞込みがよくて案ずるより産むは易しでした。  
もうひとつ心配だったのは絵を描くこと。そんな中で見事な作品を2点披露  
しましょう。

その1。始めは鼠の絵でした。次が牛。子丑寅の十二支だったのです。絵  
も上手でした。立体絵本は6頁迄しかなかったのご褒美にもう一巻おまけ  
を付けました。

その2。最初の頁は真っ赤なリンゴでした。次の頁のリンゴは一口齧<sup>かじ</sup>って  
ありました。次は二口、段々小さくなって最後は芯だけ。そしてその脇に「食  
べたのダレ！」これには居合わせた一同大爆笑。そして脱帽。子供のアイディ  
アは凄い。

何時ものドクター、ナースのとは異なった活動で、準備は2カ月ほど前か  
ら始めましたし当日もなかなか大変でしたが、楽しい一日<sup>くたび</sup>でした。でも草臥  
れました。

松戸ボランティアの会・おもちゃの図書館付属病院 吉田徳三

表紙の絵 「うさぎをさわる私」 殿園 七海

裏表紙の絵 「漁港」

高山 夏生

千葉県 友遊おもちゃ図書館

# きょうだいだって愛されたい！

「障害のある人が兄弟姉妹にということ」

家族が家族であり続けるために 親やきょうだいに必要な支援とは……

全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会 編／東京都社会福祉協議会 発行

## 《第一章》

親は待ちにまった我が子に障害があると宣告されたとき、「何故、私に障害児が……」と大きなショックを受け、この子をどう育てていけばよいか迷います。親には、心の余裕もないまま日々過ごすことになります。きょうだい達は幼い頃から寂しい思いをし、辛くても悲しくても 我慢して良い子になろうと頑張ります。

障害児を抱えている家族が「家族」であり続けるために、ライフステージ（幼児期～学齢期～思春期～青年期～中・高年期）を追いながら、どんな支援が必要なのかを大人になったきょうだい達の体験を通して紹介しています。

障害児を抱えている「親の会」「兄弟姉妹の会」を紹介するとともに 大人になったきょうだい達のメッセージ、座談会も掲載されていて、きょうだい達の心の叫びが聞こえてきそうです。

資料として「知的障害のある人と家族（親・きょうだい）のライフサイクル」が参考になります。成長の時期（年齢）・本人の状況・社会との関わり・親・きょうだいに分けて幼児期から高齢期まで、特にその時期に注意すべきことなどが具体的にわかりやすく、表になっております。よい目安になるのではないのでしょうか。

## 《第二章》

障害児の親が持つ疑問をQ&A方式でまとめて紹介しています。

障害を疑われた時から、育て方や教育、家族のあり方、障害のあることを不幸に思うことはない等、具体的にとてもわかりやすく説明されております。

みなさんに是非ご一読いただきたい本です。



東京都 新宿おもちゃの図書館あいじえん  
松原 ミチ



## 育成ハンドブック No.70

発行 財団法人 日本児童福祉協会  
〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10-503  
編集 おもちゃの図書館全国連絡会  
〒103-0028 東京都中央区八重洲1-6-2 八重洲1丁目ビル8階  
電話 03 (3272) 0072 FAX 03 (5299) 9011  
E-mail : renrakukai@toylib.or.jp URL : <http://www.toylib.or.jp>

※お問合せはおもちゃの図書館全国連絡会へお願いします。